

ヒグマに関する知床住民アンケート結果概要

北海道大学 久保雄広・藤原千尋

1. アンケートに関する基礎情報

実施時期 : 平成 13 年 (2001 年) 11 月 ~ 12 月

配布回収 方法 : 広報 (12 月号) を通じて配布、自治体 (各班) を通じて回収

配布回収 枚数 : 【斜里】 2,380 世帯に配布、1,708 世帯 (回収率 71.8%) から回収
 【羅臼】 2,100 世帯に配布、935 世帯 (回収率 44.5%) から回収

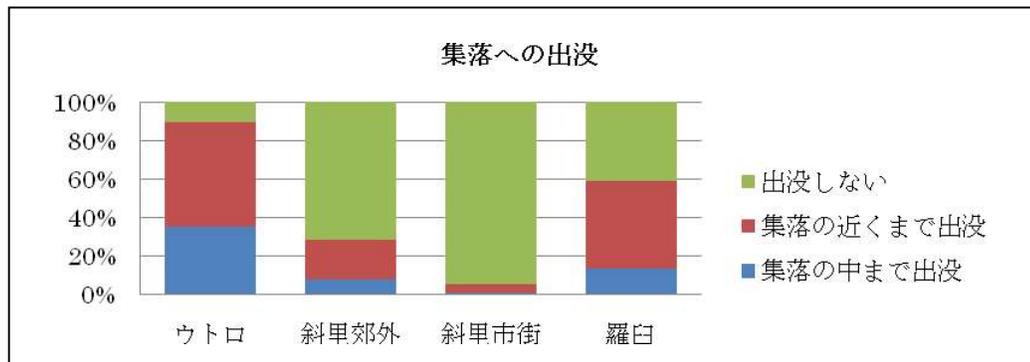
アンケート内容 : ヒグマの被害や対策に関する経験や意識 (25 項目)

今回の報告では、居住地および職業ごとに、ヒグマの被害や対策に関する経験や意識に関して分析した結果についてのみ示す。なお、斜里町に関しては自治会をウトロ・郊外・市街にわけて分析を行った。

2. アンケート結果 - 居住地別

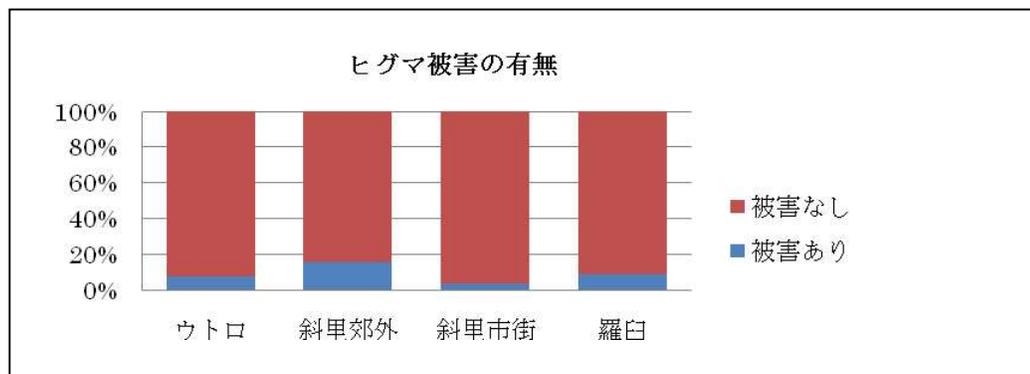
あなたの集落にヒグマは出没しますか？

過去 5 年間に集落の中、あるいはその近くにヒグマが出没したと答えた人は、ウトロでは 90.0%、郊外では 58.7%、市街では 5.1%、羅臼では 28.3% だった。



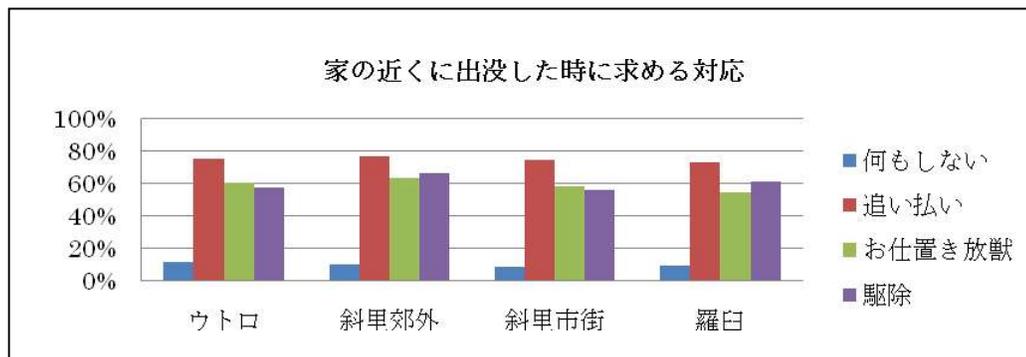
ヒグマによる被害を受けたことがありますか？

何らかのヒグマによる被害を受けた経験があると答えた人は、ウトロでは 7.7%、郊外では 15.7%、市街では 3.6%、羅臼では 8.7% だった。具体的な被害内容としては斜里側では農作物、羅臼ではゴミや漁業被害 (番屋被害含む) が目立った。



ヒグマの出没の際に求める対応は？

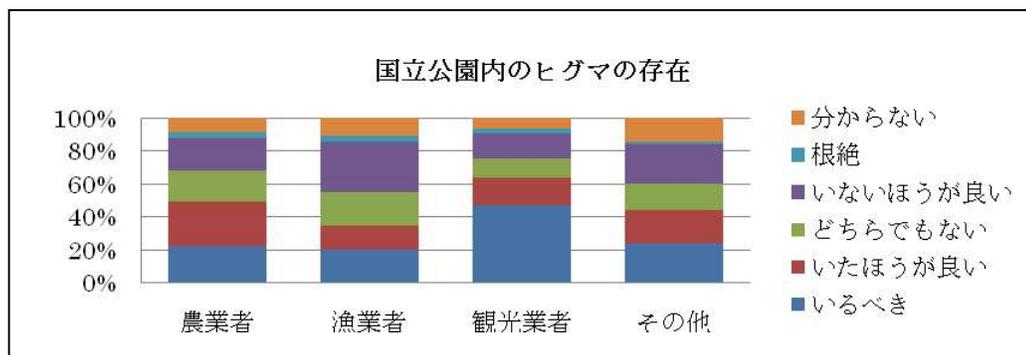
あなたの家から 50m 以内にヒグマが出没している場合、行政の対応（何もしない・追い払い・お仕置き放獣・駆除）について、それぞれ「賛成」および「やや賛成」と回答した人の割合を示す。全ての地域で追い払いが 70%以上の人から望まれており、逆に何も対応しないこと全ての地域では望んでいる人は少なかった。



3. アンケート結果 - 職業別

国立公園内外のヒグマの存在について、職業別に分析を行った。

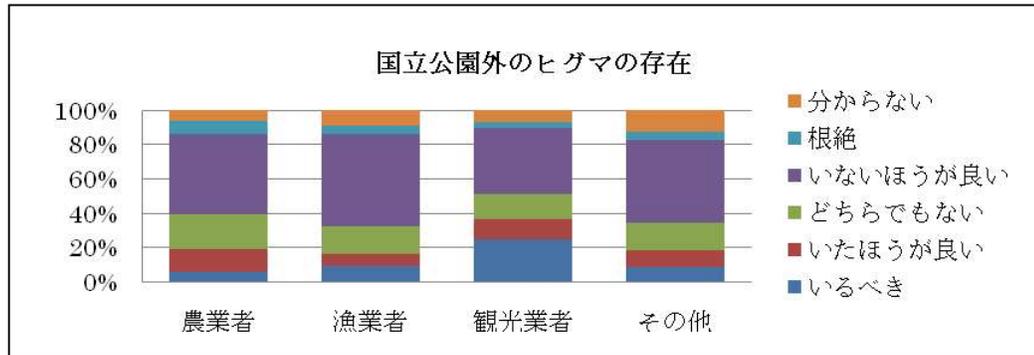
国立公園内にヒグマはいるべきだと思いますか？



国立公園内にヒグマがいることに対して「肯定派」は農業者 49.0%、漁業者 35.0%、観光業者 64.0%、その他 44.0%でした。逆に「否定派」は農業者 23.1%、漁業者 34.1%、観光業者 18.0%、その他 25.2%でした。

国立公園外にヒグマはいるべきだと思いますか？

国立公園外にヒグマがいることに対して「肯定派」は農業者 18.9%、漁業者 16.7%、観光業者 36.9%、その他 18.5%でした。逆に「否定派」は農業者 54.6%、漁業者 59.2%、観光業者 41.7%、その他 53.3%でした。



4. まとめ

以上の結果から、ヒグマの出没やヒグマによる被害経験が即ヒグマの存在を否定することに繋がるわけではないことが明らかになった（例えば、最もヒグマの出没があるウトロの回答者がヒグマの存在に対して「肯定派」である割合が高いことや、直接被害を受けている農業者や漁業者がその他の職業とヒグマの存在に対しては大きな意見の差が見られないことなど）。むしろ、ヒグマと一定の関わりをもつ人の方がヒグマに関する経験がない人よりもヒグマの存在に寛容であると推察される（例えば、殆ど出没も被害もない市街の回答者がヒグマを対して恐怖を感じていることなど）。

5. 参考

実施主体

【斜里町】 自然トピアしれとこ管理財団

【羅臼町】 羅臼町・根室管内ヒグマ研究委託事業（根室支庁事業）

（協力：環境省・斜里町・自治会連合会・各自治会）

実施自治会

【斜里町自治会】

ウトロ・日の出・峰浜・朱円東・朱円・朱円西・越川・富士・以久科北・以久科南・栄街・三井・来運・川上・美咲・大栄・中斜里・ホクレン・本町中央・港町第2・文光・青葉町・望岳・豊倉北・光陽南

【羅臼町自治会】

栄町・栄町高台・海岸町・共栄町・春日町・松法町・船見町・知昭町・八木浜町・富士見町・峯浜町・本町・麻布町・岬町・緑町・礼文南・礼文北